

令和6・7年度 熊本県教育委員会指定 「熊本の学び」 研究指定校事業

## 研究主題

能動的に学び続け、共に未来を切り拓く生徒の育成

～「話し合い活動を大切にした授業づくり」と「希望に満ちた学級づくり」を通して～



甲佐町立甲佐中学校

# 研究の構想

## 学校教育目標

希望を語りあい、共に未来を切り拓く生徒の育成

## 研究主題

能動的に学び続け、共に未来を切り拓く生徒の育成

～「話し合い活動を大切にした授業づくり」と「希望に満ちた学級づくり」を通して～

### 研究の仮説1

話し合い活動をはじめとした授業づくりの工夫を通して、生徒の「分かった」「できた」がある授業を展開していけば、生徒の主体性を育み、一人一人の学力の向上に繋がるだろう。



### 研究の仮説2

学習の土台として、対人スキルアップの取組などを通して、望ましい人間関係を醸成すれば、学校生活全体の充実や未来への希望へと繋がるだろう。



### 「熊本の学び」から

- ① 「展開」に重点を置いた「やってみよう」「なるほど」「きっと」など、挑戦したり納得したりする生徒の姿が見られる授業づくり
- ② 「終末」に重点を置いた「分かった」「できた」「もっとやってみよう」など、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりして学習に取り組む生徒の姿が見られる授業づくり



### 「目指す生徒像」から

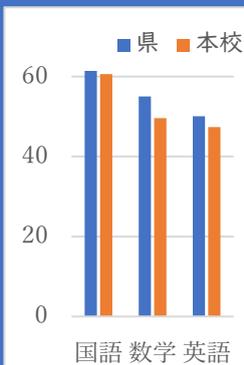
- たくましいからだを鍛えあう生徒
- 豊かな知性を磨きあう生徒
- 高い理想を求めあう生徒

### 「昨年度の取組」から

昨年度の取組から、「学校全体の共通実践が見えにくい」という課題が挙げられた。ソーシャルスキルトレーニング(SST)等の取組を継続するとともに、生徒の実態に則した共通実践を設定し、教職員全員で徹底して取り組む必要がある。

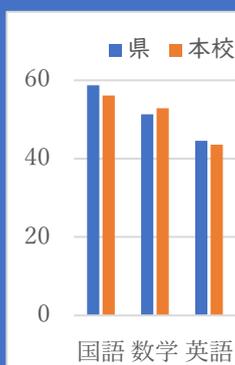
# 生徒の実態

R6 県学調(1年)



国▲0.8 数▲5.4 英▲2.7

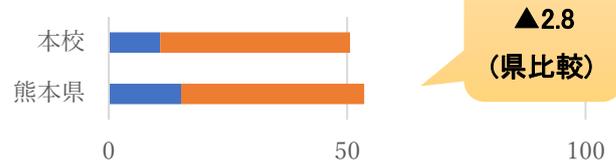
R6 県学調(2年)



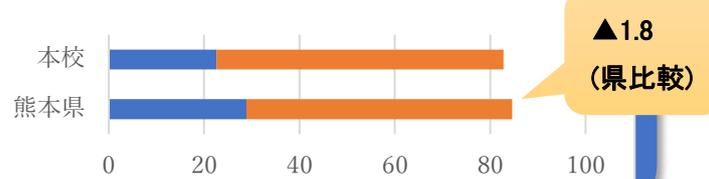
国▲2.6 数▲1.6 英▲1.0

R6 全学調[生徒質問] 肯定的な回答の割合

自分の考えを発表する機会では、話の組み立てなどを工夫して発表していますか



学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができていますか



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる

## <考察>

昨年度の県学調は、2年生数学以外は県平均を下回るという結果であり、基礎的・基本的な内容の定着をはじめとした学力の向上が本校の喫緊の課題であることが明らかとなった。また、昨年度の全学調の結果から「自分の考えを発表する機会に、話の組み立てなどを工夫して発表すること」や、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすること」に課題があることも明らかとなった。そこで、全教職員で「能動的に学び続け、共に未来を切り拓く生徒」を育てるため、「課題解決のために話し合う活動」を取り入れた授業づくりと、その授業を実現するための学級づくりを推進していきたいと考えた。

## 「授業づくり部会」の取組

- ① 話し合い活動の工夫
  - ・「一人では解決困難な必要感のある課題」を設定した話し合い活動の導入
  - ・話し合い活動を通じた終末の工夫
- ② ファシリテート力の向上
  - ・生徒の考えを引き出し、共有し、学びを深める教師のスキルアップ
  - ・「7つのチェック項目」を基にした実践

## 「学級づくり部会」の取組

- ① 継続的なソーシャルスキルトレーニング (SST) の取組
  - ・学級における集団づくり
  - ・オープンマインドな雰囲気づくり
- ② ストレスチェック
  - ・毎週木曜日に実施
  - ・定期的な教育相談へつなげる

# 研究の実際

## (1) 「授業づくり部会」の取組

### ① 話し合い活動の工夫

「熊本の学び」における「展開」や「終末」に重点を置いた授業を展開するために、3つの視点を念頭に置き、校内において授業づくりや構想案の作成を行った。

【視点1】では、学校生活や日常生活に関連させた「必要感のある課題の設定」が重要であると考えた。その際には、学習者の視点に立ち、「一人で容易に答えを出せる課題ではなく、個人の考えを出し合ったり、学び合ったり、練り上げたりしていくことで最適解に辿り着けるような課題の設定」を各教科で行った。

【視点2】は、他者との話し合い活動を通して、自身の考えにどのような変容をもたらしたかをアウトプットし、自身の学びを客観的に捉えることで、意欲や主体性を高めることをねらいとした。

【視点3】は、道徳や学級活動、自立活動などの授業の中で、安心して話し合い活動に取り組むための言葉遣いや他者への声かけの仕方、意図的なグループ編成等の工夫を行った。

これらの視点での共通実践を継続することで、全ての教職員が教科等にとらわれず「必要な話し合いだったのか」という視点で授業研究会に臨むことができた。その結果、活発な授業研究会へと繋がり、それぞれが以降の授業等に生かすことができた。

### ② ファシリテート力の向上

話し合いにおける生徒の能動的な学びは、綿密な準備と教師のファシリテート力が不可欠である。そこで、「熊本の学び」で示された7つのチェック項目を参考にして各自が授業の振り返りを行い、教師のファシリテート力の向上に努めた。また、これらの項目は、授業研究会でも重要な視点として用いた。

【視点1】	「話し合い活動」を大切にした「やってみよう」「なるほど」「きっと」など、挑戦したり納得したりする生徒の姿が見られるような「展開」の工夫
【視点2】	「話し合い活動」を通して、「分かった」「できた」「もっとやってみよう」など、実感や達成感を得たり更なる意欲を高めたりする生徒の姿が見られるような「終末」の工夫
【視点3】	希望に満ち、安心感のある学級づくりを実現するための手立て（人間関係形成、学級経営、SST やセルフストレスチェック等）の工夫



- 子供たちは自分の考えを伝えたいと感じたか。
- 対話の必要性がある課題設定だったか。
- 子供たちが話し合う目的や手段を明確にできたか。
- 子供たちの表現を生かしているか。
- 机間指導を通して意図的に指名しているか。
- 子供たちが練り上げのよさを感じる言葉かけができたか。
- 自分の力でやってみようという新たな課題を準備しているか。

## (2) 授業の実際

### 授業の流れに関する共通実践

各教科の授業においては、これまで本校が取り組んでいる「チェック」「シンキング」「アクション」「チャレンジ」(右図)という4つの学習の流れを継続して行った。これらの学習過程のカード黒板にも掲示するので、生徒たちは、「今は確認の時間」「今は個人で考える時間」と意識して学習に取り組んでいる。



### 各教科における実践【終末】(3年国語)

グループで一枚の環境に関する新聞の記事を作成する取組を行った。その中で、編集会議や反省会を通して、個人の振り返りと次回の見通しを持たせた。生徒からは「会議を通して、自分では気付かなかったことを教えてもらい分かるようになった」「次の時間では、文字や写真を大きくして他の人が見やすい記事にしていきたい」など、話し合いを通して考えを深めたり、新たな考えに気付いたりした記述が見られた。

導入

**チェック**

既習事項の確認

展開

**シンキング**

個人思考の時間

**アクション**

協働解決の時間

終末

**チャレンジ**

まとめ・振り返り

### 各教科における実践【展開】(3年社会)

3年生の社会科の授業では、これから生徒自身が自分事として実際に取り組んでいく「合唱コンクールの練習場所」をテーマに、「一人では解決困難な必要感のある話し合い活動」を行った。

このテーマでは、クラス数で均等に割り切れない練習回数や場所をどのようにすれば平等になるのかを考え、前述の4つの学習過程に沿って「個人思考→協働解決」の流れで、それぞれの考えを伝え合った。その際には、自身のタブレットや大型モニターに投影した画面を見せながら伝える活動を行った。その結果、意欲的な話し合い活動が展開された。



### 各教科等における研究の視点に関わる取組の例

#### 【視点1】

技術(企画会議シートの取組)、社会(評価し合う取組)、保健体育(生活習慣について伝え合う取組)、英語(質問をする取組)、数学(他者の説明をする取組、批評する取組)

#### 【視点2】

理科(対話を通して考察をする取組)、音楽(カードを使って考えをまとめる取組)

#### 【視点3】

自立活動(言葉遣いや聞く姿勢に関する取組)、美術(意図を踏まえアドバイスする取組)、道徳(グループ編成の取組)

### (3)「学級づくり部会」の取組

#### ① 継続的なSSTの取組

学級づくり部会では、昨年度から継続して、全学級で、毎月最終木曜日の6時間目終了後にSSTの時間を確保し、希望に満ち、安心感のある学級づくりに繋がる活動を行っている。

年度はじめに「言葉が荒い」「話を茶化す、いじる」「語彙が少ない」という本校生徒の現状と課題を校内研で職員に共有し、「SSTを活用した生徒のコミュニケーション能力向上に向けた取組について」の研修を、学級づくり部会担当者が行った。

そして、各学級担任が学級の実態に合わせてペアやグループで活動したり、ロールプレイを行ったりして、自分の思いを伝える手段や、思いの受け止め方を学んでいき、話し合い活動にも不可欠な支持的風土の醸成へと繋げている。



#### ② ストレスチェック

今年度もストレスチェックを継続して取り組んだ。質問項目は次のとおりである。

- (1) 今のストレス値はいくつですか？  
(10段階で解答)
- (2) ストレスの原因は何ですか？
- (3) あなたが悩みを相談したい人は誰ですか？

必要に応じて(3)で書かれた内容を踏まえて積極的に生徒と関わっていくことで、人間関係のトラブルへの早期対応を図っている。

#### SST 年間計画 (R6年度)

	10月	11月	12月	…	3月
内容	物事の捉え方の違い	表情と気持ちの関係	相手の気持ちを想像し話しかける	…	トラブルの解決方法
スキル	表現スキル、聞き取りスキル	表情認知スキル、共感スキル、自他の感情理解スキル	他者の感情理解スキル、共感スキル、会話スキル	…	自他の感情理解スキル、表現スキル、状況理解スキル



**誘い方を練習する「ジャンケン集合ゲーム」**  
ジャンケンで同じものを出した人が無言で集まったり、呼びかけあったりして集まるゲーム。

**「あいさつゲーム」でコミュニケーション**  
室内を歩き回り、1回目は表情も変えずに通り過ぎる体験を、2回目は笑顔であいさつする体験をする。

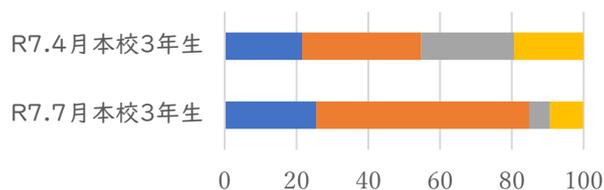


**話し方や聞き方を確認「そうですねゲーム」**  
4人組になって、話す人、聴く人、観察する人に分かれ、話の聞き方のポイントを押さえているかチェックする。

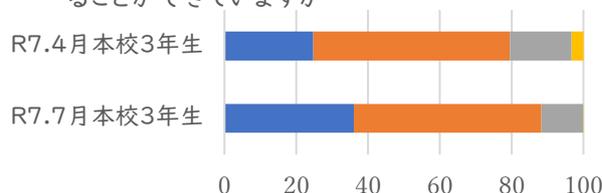
# 研究の検証

## R7 全学調 生徒質問 現3年生の4月からの比較

自分の考えを公表する機会では、話の組み立てなどを工夫して発表していますか



学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができていますか



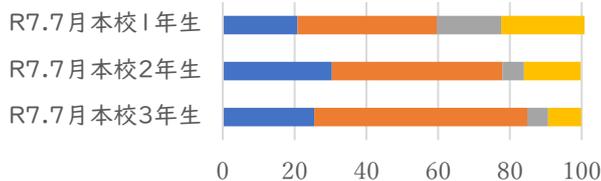
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

令和7年7月に本校3年生に行ったアンケートによると、肯定的な回答の数値が4月から30ポイント上昇した。取組の成果が現れている。

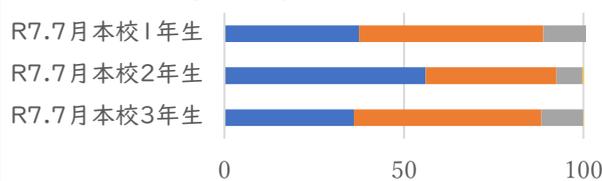
取組の結果、令和7年7月に本校3年生に行ったアンケートにおける、肯定的な回答の数値が4月から8.8ポイント上昇した。

## R7 全学調 生徒質問と同内容の本校生徒アンケート(令和7年7月実施)

自分の考えを公表する機会では、話の組み立てなどを工夫して発表していますか



学級の生徒との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができていますか



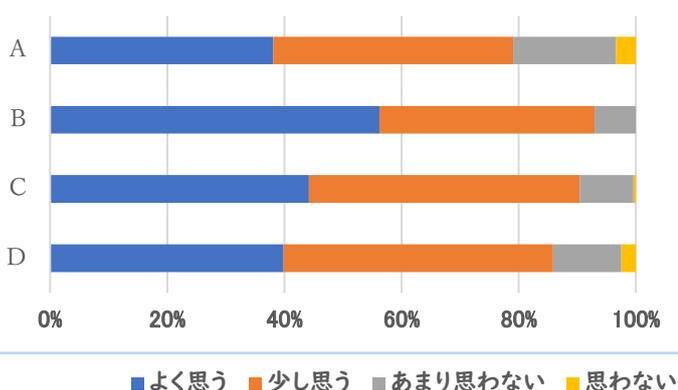
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

「話の組み立てなどを工夫して発表していますか」という校内実施のアンケートに対し、肯定的な回答をした生徒の割合は全体で7割を超えている。しかし、1年生に課題が見られたので、今後は相手に分かりやすく伝える工夫等の取組を行いたい。

「自分の考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができていますか」の項目では、学校全体で9割近くの生徒が肯定的な回答をしており、全体的に高い数値となっている。

## SSTに関するアンケート結果 (令和7年7月全校生徒に実施)

### SSTに関するアンケート結果



■ よく思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない

- A: あなたの学級は、話し合い活動の中で自分の意見を言いがやすいですか?
- B: あなたの学級は、話し合い活動の中で自分の意見を聞いてくれますか?
- C: SSTを通して、自分の言葉遣いや接し方を振り返っていますか?
- D: SSTは、自分の日常生活に役立っていると思いますか?

全ての項目において約8割の生徒が肯定的な回答をしている。中でも、「自分の意見を聞いてくれる」「自分の言葉遣いや接し方を振り返る機会となっている」と感じる生徒の割合は90%を超えている。SSTの取組が支持的風土の醸成や自身を振り返る機会となっている。一方、Aの項目では、他の項目と比べて否定的な回答の割合が高くなっていた。学級での集団作りを進め、一人一人が安心して発言できる人間関係づくりを行いたい

# 研究のまとめ

## 「授業づくり部会」の取組

- 話し合い活動を全ての教科等の共通実践として位置付けることで、発表内容の構成や発表の仕方の工夫を意識する生徒が多く見られた。また、教師が話し合い活動をファシリテートしていく意識の向上に繋がった。
- 教師がファシリテートに徹することで、生徒から問いを引き出す授業へと転換することができた。
- 話し合い活動について、①綿密な計画、②話し合いの構造化、③発表の工夫、を授業者が意識することで、効果的な話し合い活動にすることができた。
- 授業のまとめ、振り返りの場面で、話し合い活動等を行うなど、生徒がアウトプットすることで、学習内容の定着につながった。
- 学習規律や規範意識の面では課題が残る。今後も研究を重ねながら学力の向上に繋がるよう取組を継続させていく。
- 教師の指示が通りにくい生徒に対する手立て（生徒の発達段階に応じた言葉、具体的な言葉の使用など）を検討する必要がある。
- 今後も引き続き、教師のファシリテーション能力を向上させることが必要である。

## 「学級づくり部会」の取組

- 計画的な SST の取組を通して、多くの生徒が自分自身の言葉遣いや接し方を見直したり、日常に役立てたりしようとする姿が見られるようになった。
- 計画的に SST を行うことで、学級において生徒間の望ましい人間関係づくりにつながった。
- ストレスチェックを教育相談や学級経営に生かすことで、生徒間のトラブルや不登校等の未然防止につなげることができた。
- 自分の意見を伝えることに対する自信をつけさせていくために、今後は「伝え方のスキル」の育成にも力を入れながら、学級・学年・学校づくりをさらに推進していく必要がある。
- SST の効果を学級経営や授業で反映させるためにも、実施回数や内容を検討するとともに、教師のスキルアップが求められる。